



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 41

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
牛を使った田植え仕事
昭和20年代 三野町

田植えなどの田仕事は重労働であり、とくに農繁期は家ごとでは労働力が不足するため、親戚や近所が一緒になって田仕事をおこなった。写真にも大勢の人々が写っており、田植えをおこなう早乙女などの姿も確認できる。機械化されるまでは、牛は主要な動力として利用されていた。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。「文書館 53・1010」

「想い出の1ページ」

昨年まで三野町大見地区で農業を営んでいた片山行雄さん(83)は、当時をこう振り返ります。

「この写真は、浅津地区の共同田植えの様子ですね。会社勤めする人も少ない時代でしたから、家族と近所の人とが協力して、田植えや防除、稲刈りなどをしていました。

写真に牛が映っていますね。昔は、どこの家も牛を飼っていました。浅津地区は、田んぼと家が離れ、小高いところに集落があります。田んぼから家までの坂道を人力で運ぶのは大変ですから、牛が荷物を運びました。牛に取り付けている器具は、『馬んぐわ』と呼ばれるもので、田植え前に行う代かきで使用していました。普通、一枚の田んぼで使う牛は1頭ですが、写真には、一枚の田んぼに3頭写っていますね。人も整列しているところを見ると、写真撮影のために集合したんでしょう」と、写真を指さしながら話してくれました。

また、奥さんの片山千恵子さん(81)も、次のようなエピソードを話してくれました。

「家族には牛を大事にしなさ

いって、よく言われていますね。やさしく扱っている牛は、おっとりとして、素直に言うことを聞いてくれますから。うちの夫は、牛の扱いが荒かったので、なかなか言うこと聞いてくれなかつたんですよ。だから牛も飼い主に似るんだなあって思っていました(笑)」

昔の農家は、朝から晩まで働きづめで、想像できないくらい大変だったそうです。

しかし、大切に育てた農作物が無事収穫できて、豊作だったときが何よりの喜びで、苦勞が報われる瞬間だと片山さん夫妻は笑顔で話してくれました。

編集 後記



ド ライカレーやきなご揚げパン、冷凍みかん…。大人になった今では、給食が大変懐かしく感じます。

これからは新しく完成した南部学校給食センターから、子どもたちのためにおいしい給食が届けられます。彼らが大人になったときに、懐かしむ味がここから作られていくんですね。